

豊明団地の学生居住プロジェクトに参加する藤田医科大学生が、共生の地域づくりに貢献する中で、市に任命される防災サポーターとして、災害発生時訓練の避難所運営にスタッフとして参加した経験など、団地と地域住民のために活動する取り組みを紹介します。

防災サポーターとは

藤田医科大学の「豊明団地学生居住プロジェクト」に参加して団地で暮らす学生が、豊明市の防災サポーター研修を受けることで任命される災害支援ボランティア。災害発生時に豊明市から依頼を受けて、避難所設置や運営で、避難所受付、炊き出し、避難者の話し相手、支援物資の仕分けなど必要とされる様々な活動に携わります。



豊明市広報誌で紹介された
避難所運営の防災サポーター研修

豊明団地学生居住プロジェクト 年間活動

学生は、「自治会連絡・けやき新聞班」、「国際交流調査・学生新聞班」、「買い物・モバイル支援班」、「クリスマス会・寺子屋班」、「ウォークラリー・送別会班」の6つの班に別れて活動。全体では、5月に「自治会主催のごみゼロ運動」、8月に「防災サポーター研修」、「ちょっと講習会」などを行い、団地住民の方との交流と地域貢献活動への参加を通じて、多くの学びを得ています。



豊明市防災訓練で避難所運営に参加

豊明市防災訓練

日時 2022年11月12・13日

会場 豊明市立二村台小学校

実施内容 マグニチュード9・震度6強の地震が発生した想定のもとで、11月12日夕方に小学校に避難所を開設。13日朝から地域住民の方の避難訓練を行い、防災サポーター学生が避難所の受付を担当した。



「当日は受付で、避難して来た人たちに名前を書いてもらい、参加の特典で水やクラッカーを渡しました。本来は居住区まで記載していただくところ、今回は省略して氏名のみとしていたが混雑してしまったため、実際に被害にあったときにどう捌いて受付していくのか、課題が見つかりました。参加者の中に団地の学生と顔なじみの方がおり、2年生で今までつながりが少なかった私も、参加したことで地域の方とのつながりができたことが特に印象に残ったところです」



保健衛生学部 看護学科 2年
荒木 悠那

多文化共生の団地で

豊明団地は2000世帯、4000人を超える住民の方のうち外国籍の方が2〜3割を占め、その方々を除くと高齢化が進んでいます。独居や単身世帯も多い団地特有の課題に取り組むべく、豊明市、藤田医科大学、UR都市機構の3者が協力するプロジェクトが立ち上がりました。学生の団地居住やコミュニティ活動への参加などの活動を通して、多様な世代がいきいきと暮らし続けられる住まい、まちづくりを目指しています。



「同じ棟にすんでいるのはほとんどが外国籍の方ですが、日常的に日本語で挨拶を交わしたりしていて、文化の違いを感じることなく住みやすいです。ウォークラリーにも外国のお子さんグループにも参加してもらい、交流が生まれて、良かったです（荒木）」

大学としてのまとめ

団地居住学生プロジェクト全体を通じて、一緒に住むことの重要性が特に上げられると考えます。大学の授業や実習で地域の活動に参加することは異なり、住むことで日常的に地域住民の方と触れあい、その方たちの声がダイレクトに聞こえてくる環境で活動することで、初めて見えてくる地域の状況から多くの学びが得られたりします。このように、活動を通して体験による多様な学びの機会が得られています。学生の防災サポーターとしての役割に加えて、高齢者ではフレイル予防、また、外国籍の方を含めた地域のつながりの視点は重要になっています。今後の「多文化共生の地域づくり」を考えるうえでは、ますます地域住民の自助、互助の強化ということが求められ、必須になっていくと考えています。